【 13 】

氏名	前　田　昌　義
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	学　　術
学位授与番号	博甲第２０２４号
学位授与の日付	平成１２年　３月２５日
学位授与の要件	文化科学研究科人間社会文化学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	近代における蚕糸業の展開の地域的特質 －後発地域岡山県の場合－
論文審査委員	教授　神立　春樹　　教授　内田　和子 教授　下野　克己　　教授　倉地　克直 愛媛大学法文学部教授　井川　克彦

学位論文内容の要旨

本論文は、蚕糸業の後発地域である岡山県における蚕糸業の展開過程について検討することにより、従来の主として先進地域についての蚕糸業研究の対象範囲を拡大して、蚕糸業の戦前の日本経済における意義をより明確にすることを意図したものである。

第1章 研究史の課題と整理 は、まず、近代日本蚕糸業史研究の現状を整理し、課題を設定している。蚕糸業史研究は蚕糸業のもつ重要さから、これまで多くの研究が行われた分野であるが、そのほとんどが蚕糸業先進地域についてのものであり、後発地域についてのものは少ない。先進地域は突出した位置にあるが、それを除いた地域においても蚕糸業は広汎に展開したのであり、その研究は蚕糸業史の全体像を明らかにする上に不可欠である。特に西日本地域の蚕糸業史の研究が重要であるとして、この後発地域の蚕糸業史の研究対象を岡山県とする。このように設定した対象である岡山県における蚕糸業の研究史を整理し、課題を設定する。

第2章 岡山県蚕糸業の地域的動向 は、岡山県の蚕糸業の全国的位置づけの後、岡山県における蚕糸業が郡単位による地域的差異を伴いつつ展開した状況を検討する。ここではその検討資料を主として『岡山県統計書』類に依拠して、統計的に状況を明らかにすることを内容としている。桑園、繭産額、生糸産額、その組み合わせ、移出入状況、製糸場等について検討した結果、蚕糸業の展開には地域差があり、地域的な特色があること、蚕糸業の展開がその地域経済にとって重要なものとなっている地域が形成されていること、を明らかにしている。

第3章 蚕糸業導入の諸問題 は、岡山県における蚕糸業地域となる美作・備中における蚕糸業導入による地域の経済発展を図ろうという集団的動きを契機とする蚕糸業導入の動きが活発化することを検討している。蚕糸業の展開に先立つ、桑園のないなかで、野蚕の飼育の普及の後、明治10年代後半の松方デフレ期における桑園の造成、明治20年代前半における先進蚕糸業地への養蚕修業、県内の養蚕伝習所、養蚕書の出版などの技術導入の努力のあとを明らかにしている。

第4章　製糸場の展開 は、岡山県下における製糸場の展開を検討する。明治20年代半ばをピークとする製糸場設立の動きがある。製糸場の設立による養蚕業への刺戟もあるが、製糸場そのものの経営は不安定で明治20年代設立の製糸場の多くは30年代半ばに潰れてしまい、その後、明治40年・大正初期に再度製糸場設立の活発な時期があるというものの、

県内資本で長く営業を継続できたのは、少数のものに限られた。

このような製糸場の推移のなかで、いくつかの製糸会社・製糸場の検討を行っている。

美作地域においては、拡昌館、作楽製糸株式会社、浮田製糸、大月製糸、中国蚕糸株式会社など、会社形態をとるもの、個人経営であるものなどについて、その経営的資料のない状況のもとで、検討を進めている。

備中地域には、明治20年代後半の中備製糸株式会社が井原の商人によって設立され、糸質の良さや資金の安定供給などの条件によって、多くの年度で利益を上げた。長く営業し、県内資本ではトップクラスとなり、井原の町に経済効果をもたらした。

さらに、山陽製糸株式会社、芳井製糸株式会社などについての検討も行っている。

これらの製糸場は、その地域の蚕糸業の展開の度合、経営方針、資本力が影響して、特色、盛衰があったとしている。

終章

蚕糸業における後発地域である岡山県においても、蚕糸業の展開によって地域ごとの特色が生まれた。また、蚕糸業の展開による地域への経済的・社会的影響も大きかった。蚕糸業の展開の要因としては、初期の導入の契機・技術普及・製糸場の活動が大きい。成立した製糸場の経営は多くの困難さがあり、容易に永続しなかった。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

上記のような内容構成の本論文の審査の結果を記す。

(1)研究の成果と本論文の長所

明治から昭和戦前期における岡山県蚕糸業の展開を扱った本論文は、研究蓄積が少ない後発地域における蚕糸業の展開も蚕糸業の全体的把握および地域経済にとって重要な意味をもつという観点にもとづき、蚕糸技術・養蚕書・製糸業などの一次資料や地元新聞記事を広汎に発掘・収集し、実証的に大きい貢献となっている。研究史上における長所はつぎの諸点である。

第一に、後発地域岡山県における蚕糸業の時期的地域的状況を主として『岡山県統計書』類という統計書により検討し、蚕糸業の展開の全体的枠組を示したことである。近代産業展開における依拠資料の存在は多様であり、それがない場合でも官庁統計による枠組の検討は可能であるが、それを行うことにより岡山県における蚕糸業の展開の枠組みを示した。

第二は、西日本における蚕糸業の発達を論ずる場合に不可欠な地域への蚕糸技術導入と養蚕・製糸業の勃興を総合的に検討する第3章において実証的に追求し、収集した多くの事例から、かなり旺盛な民間活動の存在や技術的発展の特徴を明らかにしている。また、明治前期における野蚕奨励・導入という従来蚕糸業史で見落された問題について論及している。

第三は、岡山県に存在した器械製糸場の関係史料を渉猟し、それにもとづき岡山県製糸業の経営的展開の実態について多くの事実を明らかにしたことである。とくに独占的製糸資本の片倉・郡是・鐘紡と一般製糸場の格差が拡大する以前、1923年頃までは中備製糸などがかなり良好な経営成績を残したことを明らかにし、従来実証的に明らかにされていない西日本優等製糸家（関西エキストラ）についての貴重な業績となっている。

元来、蚕糸業史研究は、製糸場の規模が小さく不安定で、戦後への継続性が小さいことなどから資料的困難さがつきまとうが、ましてや西日本地域はことにそうである。このようななかで本研究は、岡山県という特定地域の戦前期蚕糸業の全体像を提示しえたのである。

(2)問題点

まず、第2章での岡山県蚕糸業の構成は岡山県蚕糸業史の具体的な検討対象設定となり、第3章は本格的導入に至る試行錯誤という前提の検討を行い、第4章が製糸工場の展開についての検討となっているという全体構成であるが、養蚕業そのものが地域経済にもった意味の検討を行う章を設定することによって完結するのであり、その設定がのぞましい。

つぎに、第2章おいて『岡山県統計書』類に依拠して、桑園、繭産額、生糸産額、その組み合わせ、移出入状況、製糸場等について検討して、蚕糸業の展開の地域的状況を明らかにしているが、そのいくつかのファクターによる蚕糸業地の類型化をより明確、かつ簡潔にすることがのぞましい。

第三に、蚕糸業における地域の規定性は，養蚕基盤・労働市場の二点を軸に他産業より格段に大きいが、この点についてより踏み込んだ理論的整備を行い、技術導入過程の在り方を含めて、西日本の他府県との比較を行えば、この論文における実証はその重要性をいっそう明確にしたであろう。

第四点は、この論文における蚕糸業の地域性に関する分析には、繭の移出入や、養蚕農民・製糸女工という二面における労働（市場）の地域的特質を位置づけることなどが望ましかった。

(3)総括

本論文は、従来、取り上げられなかった後発地域における蚕糸業の展開過程というわが国の蚕糸業史における新しい対象を検討したものであり、蚕糸業研究に新たな知見を加え、大きく寄与するものとなっている。

以上によって本審査委員会は本論文を博士学位論文として認定した。